

国際ワークショップ

「世俗と宗教のあいだ： モンゴルにおけるシャーマニズムと仏教の実践から —過去と現在—」



2016年11月25日 14:00～@滋賀県立大学A1-302教室

参加費無料、申込みも不要です。

●学長挨拶 (14:00-)

大田啓一 (滋賀県立大学)

※このワークショップの進行及び発表は全て英語で行われます。

●基調講演 (14:10-14:30)

ビルタラン・アグネシュ (エトヴェシュ・ロラード大学、国際モンゴル学会会長)
「黄色いシャーマン」

●学術発表 (14:30-17:00)

1. ショムファイ・カラ・ダーヴィド (ハンガリー科学アカデミー民族学研究所)
「ヴィルモス・ディオゼーギを探し求めて：モンゴルのシャーマニズムの諸問題—1960年代と現代」
2. 趙芙蓉 (国立民族学博物館)
「治療儀礼の比較研究：内モンゴル東部のホルチンとバルガのシャーマン儀礼から」
3. ビャンバラグチャー (モンゴル科学アカデミー歴史学研究所)
「聖地化する考古学発掘現場：モンゴル・ノヨン・オールにおける鉱山開発とシャーマニズム」
4. 前野利衣 (東京大学大学院)
「17世紀ハルハ右翼における仏教と活仏ジャルハンス2世の政治的役割」
5. 棚瀬慈郎 (滋賀県立大学)
「ラブラン寺院とラマたち」

●コメント (17:00-17:15)

沈衛榮 (中国人民大学)

●ディスカッション(17:15-17:45)

●閉会の辞 (17:45-50)

島村一平 (滋賀県立大学)

●懇親会@滋賀県立大学食堂(18:00-20:00)

<お問い合わせ>

滋賀県立大学 人間文化学部 島村研究室

Tel: 0749-28-8405

E-mail: ishimamura@shc.usp.ac.jp

※本ワークショップは、科研費・基盤研究C

「グローバル経済下のモンゴルにおける「感染するシャーマン」現象に関する研究」(研究代表者：島村一平)の枠組みで企画されたものです。